

編集後記

本誌の創刊号は1970年10月1日に発刊されました。任意団体として設立して10年の節目に、社団法人化し組織基盤を確立した農業土木事業協会の新たなスタートとともに第一歩を踏み出したのです。

以来50年、会員と協会の活動、社会や農村振興・整備の動向などを中心にお知らせし続けて、本号で100号を迎えることができました。前号の99号では、その期間の協会に関わる技術の歩みを回顧しています。併せて、協会の組織としての直近20年の歩みもトレースしました。組織としてさまざまな課題を抱えつつも、本誌の継続ともども時節に応じた技術的要請に応じてこられたのは、ひとえに会員および関係諸機関はじめ読者のご支援、ご愛顧のおかげと存じ、深く感謝申し上げる次第です。

まとめられた「技術の歩み」のような過去は、現在の中に作用しています。また、現在に足がかりのない未来はないのですから、現在の中に過去も未来も生きているといえます。歴史は「現在と過去との間の尽きぬことを知らぬ対話」であるとは、イギリスの歴史家、E・H・カーのよく知られた言葉です（『歴史とは何か』1962）。「技術の歩み」は一見「A地区にX技術を使った」の羅列、平板な年代記のようですが、現在の問題意識によって生き生きと語り始めます。なぜそこに、いかなる選択肢の下で、なぜYでなくZでないのか、その後地区も技術もどうなったかなど、光を当てると異なる光に異なる分光が現れ、反射したり屈折したりして思わぬ方向へと波及するかもしれません。よき未来は、こうした経験の蓄積との「対話」を離れては望めないでしょう。

現場を見てそこで問題を解決すること、個に閉じこもらず他者との協創で価値を創り出していくこと。佐藤会長が今号のインタビューで学究生活50年を踏まえて語られたそのような智慧にも、自らの過去を深く顧みることと同様、異なる過去との「対話」、すなわち地域の時間の累積である〈現地〉、そして異なる時間の累積である〈他者〉との未来に向けた「対話」の重要さが示唆されているようです。

本誌創刊号には、発刊に先だって挙行された協会創立10周年の記念式典が「終始盛会をきわめた」とあります。本年、50周年の式典は残念ながら中止のやむなきに至りましたが、協会および本誌の活動の意義を再確認し、従来にも増して精力的に進めていく責任を肝に銘じております。創刊号「編集後記」には次の言葉が掲げられています。定番中の定番であるとしても、改めて心を添わせていく所存です。

「読者の皆様より忌憚のない御意見と御批判をお寄せ頂きたく懇願申し上げます。我々の会誌として愛読を賜わり、本誌の綴込みが次第にその厚さを増すことを祈念致します」。

(S・H生)

本誌の中の農林水産省職員の投稿文の内容や意見は、執筆者個人に属し、農林水産省の公式見解を示すものではありません。

JAGREE (No.100)

2021年7月発行（非売品）

発行人 山田 耕士

発行所 一般社団法人 農業土木事業協会
東京都港区新橋5丁目34-4
農業土木会館

電話 03(3434)5437

FAX 03(3435)7210

<http://www.jagree.or.jp>